

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年8月7日（月）～令和5年8月13日（日）〔令和5年第32週〕の感染症発生状況

第32週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）新型コロナウイルス感染症 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は11.56人と前週（12.80人）から横ばいでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.70人と前週（3.19人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.67人と前週（2.38人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



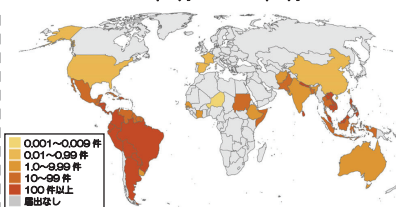
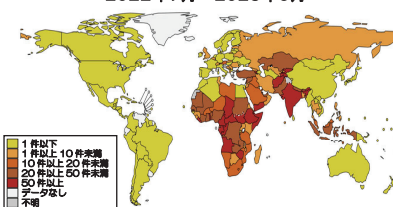
海外の感染症の流行状況に御注意を～麻しん・デング熱～

今年の夏は、過去3年間と比較して海外旅行をされる方が大幅に増加しています。海外では、国内で普段みられない感染症が流行していることもあり、渡航先によっては注意が必要です。また、新型コロナウイルス感染症対策等の影響を受けて一時的に報告数が減少していた感染症も、一部の国や地域では再び増加しています。特に、麻しんはアフリカ、中東及び東南アジアで、デング熱は中南米及び東南アジアで多数の報告があり、大きな流行もみられています。

麻しんやデング熱は発熱や発しんを特徴とする疾患ですので、概ね2週間以内に流行地に滞在歴があり、疑わしい症状がみられた際には、すぐに医療機関を受診しましょう。また、受診される場合は、医療機関へ事前に連絡の上、症状だけでなく旅行先や旅行期間も必ず伝えるようにしましょう。

世界における麻しんの国別罹患数（人口10万人対）
 ～2022年7月～2023年6月～

世界におけるデング熱の国別罹患数（人口10万人対）
 ～2022年7月～2023年6月～



令和5年8月時点の世界保健機関（WHO）ホームページデータから作成

令和5年8月時点の欧州疾病対策予防センター（ECDC）ホームページデータから作成

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・
 各区役所地域まより支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和5年8月15日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年8月14日（月）～令和5年8月20日（日）〔令和5年第33週〕の感染症発生状況

第33週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）新型コロナウイルス感染症 2）流行性角結膜炎 3）感染性胃腸炎でした。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は17.52人と前週（11.65人）から増加しました。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.67人と前週（1.44人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.18人と前週（2.62人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



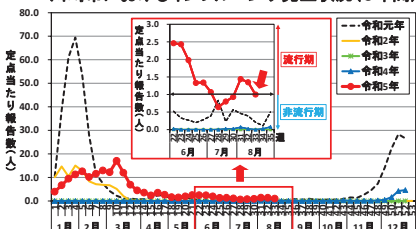
インフルエンザ～夏季にもかかわらず流行がみられています～

インフルエンザは例年冬季に流行し、通常は5月頃までに非流行期（定点当たり1.00人以下）となります。しかし、今年は7月上旬まで流行期が続き、第28週（7月10日～16日）に一旦非流行期となったものの、第31週（7月31日～8月6日）に報告数が増加し、再び流行期となりました。

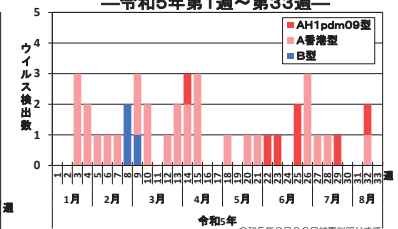
令和5年に、インフルエンザ様疾患として健康安全研究所に搬入された検体からは、A型インフルエンザが36件、B型インフルエンザが3件検出されています。5月まではA香港型がほとんどでしたが、6月以降は、平成21年に世界的に大流行したAH1pdm09型もみられるようになってきました。

日頃から咳エチケットを心がけ、発熱や咳等の症状がある場合は、必要に応じてマスクを着用するようにしましょう。

川崎市におけるインフルエンザ発生状況（5年間）



川崎市におけるインフルエンザウイルス検出状況
 ～令和5年第1週～第33週～



川崎市
KAWASAKI CITY

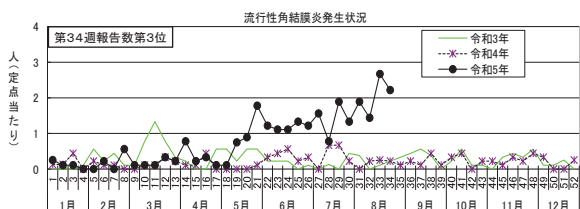
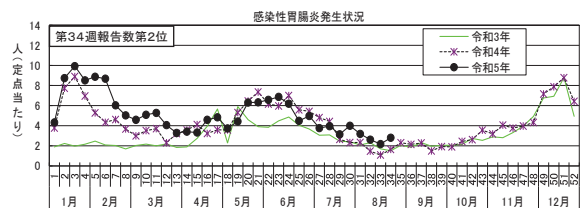
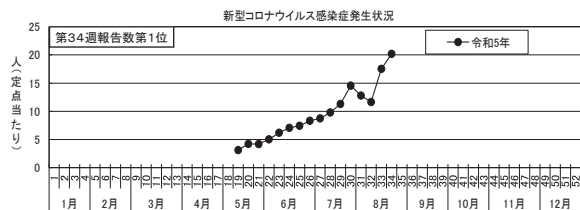
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・
 各区役所地域まより支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和5年8月22日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年8月21日（月）～令和5年8月27日（日）〔令和5年第34週〕の感染症発生状況

第34週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）新型コロナウイルス感染症 2）感染性胃腸炎 3）流行性角結膜炎でした。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は20.20人と前週（17.52人）から横ばいでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.81人と前週（2.18人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.22人と前週（2.67人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

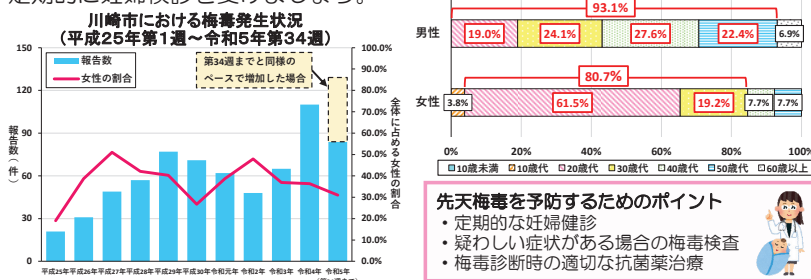


梅毒の報告数が増加中！～先天梅毒を防ぎましょう～

川崎市における令和5年の梅毒の報告数は、第34週（8月21日～27日）までに計84件となりました。今後も同様のペースで報告数が増加した場合、過去10年間で最多であった令和4年を超える可能性があります。

令和5年は、男性の報告数は20～50歳代が大部分を占め、40歳代が27.6%と最多となっています。一方、女性は妊娠可能年齢である20～30歳代が80.7%で、特に20歳代が61.5%と半数以上を占めています。

妊婦が梅毒に感染すると、お子さんに皮膚症状や眼症状等の先天性の障害が生じる（先天梅毒）可能性があります。先天梅毒は妊婦への適切な治療で予防できますので、早期診断のためにも、定期的に妊婦検診を受けましょう。



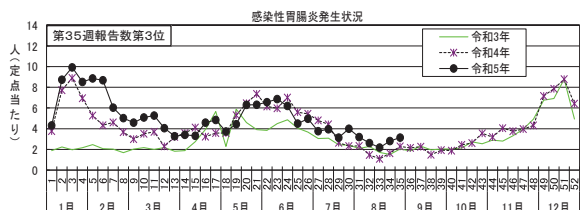
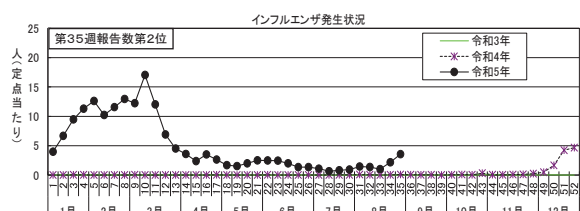
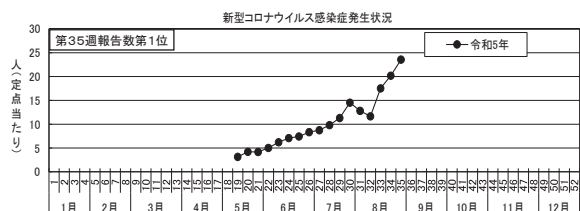
川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まより支援センター（福祉事務所・保健所支所）（問合せ先）044-276-8250 令和5年8月29日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年8月28日（月）～令和5年9月3日（日）〔令和5年第35週〕の感染症発生状況

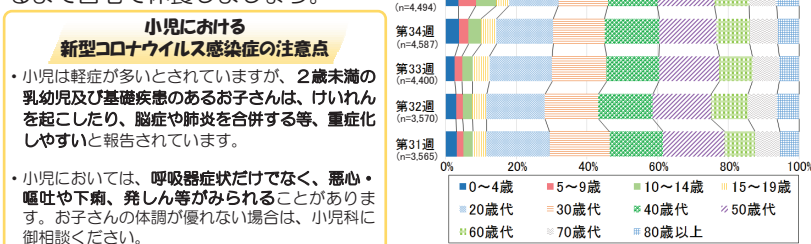
第35週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）新型コロナウイルス感染症 2）インフルエンザ 3）感染性胃腸炎でした。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は23.56人と前週（20.20人）から増加しました。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は3.54人と前週（2.15人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.14人と前週（2.81人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～小児の割合が増えています！～

川崎市における新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、令和5年第35週（8月28日～9月3日）も23.56人と増加傾向が続いており、特に8月下旬以降は15歳未満の小児の報告割合が増えています。本市が独自に実施している新型コロナウイルス感染症のリアルタイムサーベイランスにおいても、同時期から15歳未満の小児の報告数が増加しており、第35週の報告に占める割合は14.3%となりました。

夏休みが終わり学校等が再開されたため、小児の報告数は今後更に増える可能性があります。学校等での感染拡大を防ぐため、発熱や咳等の症状がみられる場合は登校を控え、症状がなくなるまで自宅で休養しましょう。



川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まより支援センター（福祉事務所・保健所支所）（問合せ先）044-276-8250 令和5年9月5日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年9月4日（月）～令和5年9月10日（日）〔令和5年第36週〕の感染症発生状況

第36週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 新型コロナウイルス感染症 2) インフルエンザ 3) 感染性胃腸炎でした。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は24.95人と前週（23.56人）から横ばいでした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は7.80人と前週（3.54人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.11人と前週（3.14人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

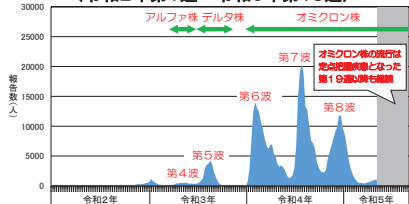


新型コロナワクチン～令和5年秋開始接種について～

新型コロナウイルスには多くの変異株が確認されており、国内では流行期ごとに主流となる株が異なります。第6波以降はオミクロン株が主流であり、第6波及び第7波ではBA.1、BA.4、BA.5等のオミクロン株の亜系統が流行しました。現在は更に変異したオミクロン株のXBB.1系統等が流行しています。

新型コロナワクチンは、概ね各流行期の株に合わせたワクチンが使用されており、9月20日から開始される令和5年秋開始接種では、オミクロンXBB.1系統に対応したワクチンが使用されます。新型コロナワクチンの初回接種を完了した方が対象ですが、接種券の発送日等については、年齢や過去の接種歴によって異なるため、詳細は川崎市のホームページをご覧ください。

川崎市における新型コロナウイルス感染症発生状況
 (令和2年第1週～令和5年第18週)



川崎市
 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 (問合せ先) 044-276-8250 令和5年9月12日作成

令和5年秋開始接種概要

- 【実施期間】 令和5年9月20日～令和6年3月31日
- 【対象者】 新型コロナワクチンの初回接種を完了している全ての方
- 【接種間隔・回数】
 ① mRNAワクチン（オミクロン株XBB.1、5対応型）
 ⇒ 前回接種から3か月以上の間隔をおいて1回接種
 ② 不活化ワクチン（ノババックス）
 ⇒ 前回接種から6か月以上の間隔をおいて1回接種
 ※①の接種を基本としますが、何らかの理由でmRNAワクチンを接種できない方は、②を使用できます。
- 【接種費用】 無料
- 【問い合わせ先】 新型コロナウイルスワクチン予約コールセンター
 0120-654-478

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年9月11日（月）～令和5年9月17日（日）〔令和5年第37週〕の感染症発生状況

第37週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 新型コロナウイルス感染症 2) インフルエンザ 3) 感染性胃腸炎でした。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は21.59人と前週（24.95人）から減少しました。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は13.31人と前週（7.80人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.73人と前週（3.11人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。



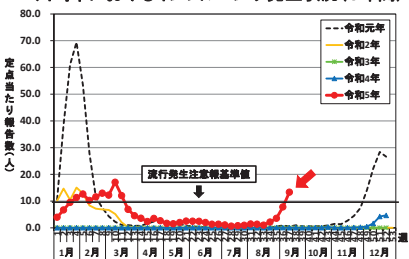
インフルエンザ～流行発生注意報が発令されました！～

川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は、令和5年第37週（9月11日～9月17日）に13.31人となり、昨シーズンから流行期が継続したまま、流行発生注意報基準値（定点当たり10.00人）を超えました。区別では、麻生区が定点当たり17.13人と最も多く、次いで宮前区が16.60人となっています。

令和5年の報告はA型インフルエンザが中心であり、今シーズンにインフルエンザ様疾患として健康安全研究所に搬入された10検体のうち、7検体からインフルエンザウイルスが検出され、いずれもA香港型でした。

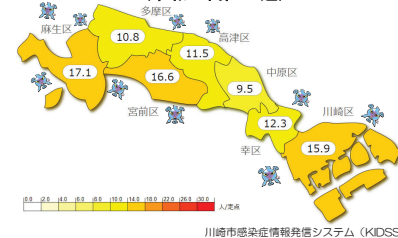
今シーズンは、インフルエンザの報告数が例年よりも早い時期から急速に増加しているため、御注意ください。

川崎市におけるインフルエンザ発生状況(5年間)



川崎市
 KAWASAKI CITY

川崎市におけるインフルエンザ分布マップ
 (令和5年第37週)



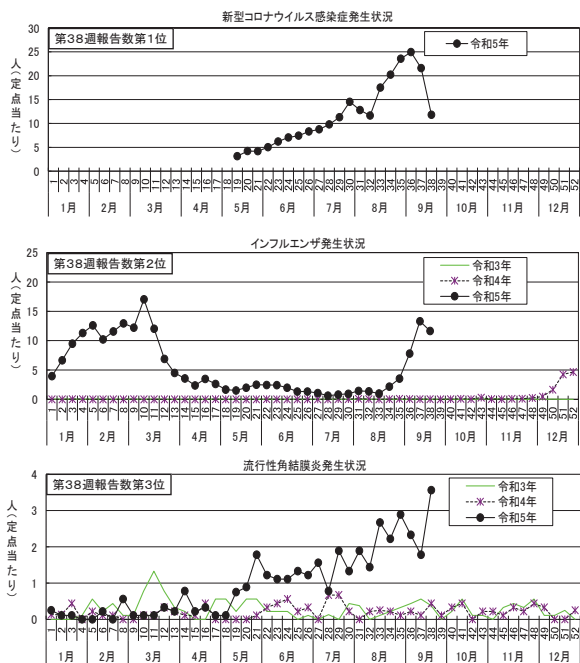
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 (問合せ先) 044-276-8250 令和5年9月20日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年9月18日（月）～令和5年9月24日（日）〔令和5年第38週〕の感染症発生状況

第38週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）新型コロナウイルス感染症 2）インフルエンザ 3）流行性角結膜炎でした。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は11.80人と前週（21.59人）から減少しました。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は11.64人と前週（13.31人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は3.56人と前週（1.78人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



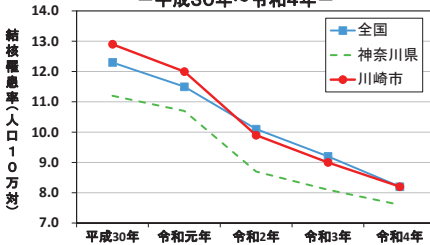
結核予防週間～いまも1日平均28人が結核と診断！～

令和5年9月24日から9月30日までは結核予防週間です。

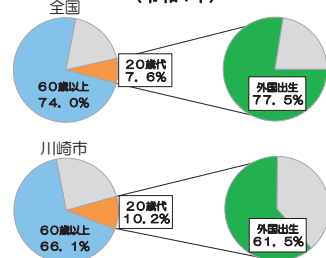
川崎市における令和4年の結核罹患率は8.2（人口10万対）と全国と同等ですが、神奈川県全体の7.6より高く、県内の政令指定都市の中で最多です。年齢階級別では、川崎市は20歳代の割合が10.2%と、若年層の占める割合が全国より高くなっています。また、20歳代は外国生まれの患者の割合が61.5%を占めていました。

結核の初期症状には、長引く咳、痰、微熱、体のだるさ等がありますが、特有の症状がないため、気付かないうちに進行してしまうことがあります。咳や痰が2週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

全国、神奈川県、川崎市における結核罹患率の年次推移
～平成30年～令和4年～



全国と川崎市における新規結核患者の状況
（令和4年）



川崎市
KAWASAKI CITY

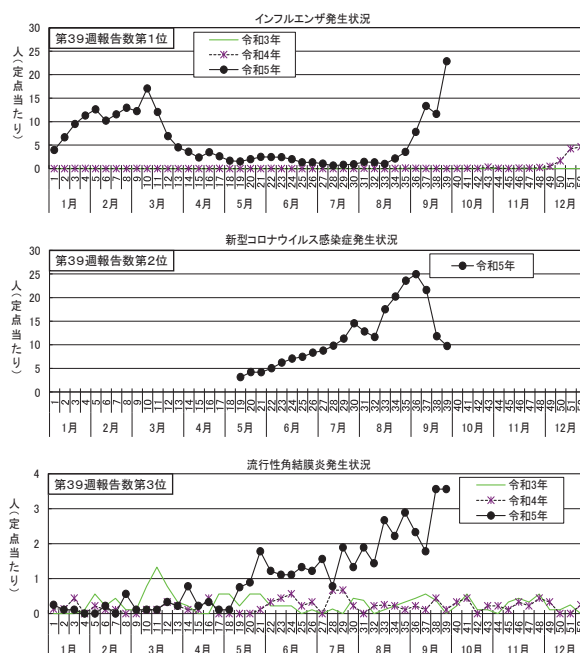
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年9月26日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年9月25日（月）～令和5年10月1日（日）〔令和5年第39週〕の感染症発生状況

第39週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）新型コロナウイルス感染症 3）流行性角結膜炎でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は22.85人と前週（11.64人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は9.72人と前週（11.80人）から横ばいでした。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は3.56人と前週（3.56人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

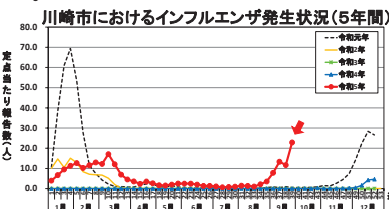


高齢者を対象とした定期的インフルエンザ予防接種について

川崎市では、今年も令和5年10月1日から、川崎市内に住民登録がある高齢者の方を対象に定期的インフルエンザ予防接種を開始しました。

インフルエンザは、新型コロナウイルス感染症の流行開始以降、報告数が激減していましたが、昨冬は3シーズンぶりに流行がみられました。その後報告数は一旦減少したものの完全に流行が終息することではなく、9月に入ってから再び報告数が急増し、流行発生注意報が発令されるなど、すでに大きな流行がみられています。

今後さらに流行が拡大する可能性もありますので、接種対象の方は可能な限り早めの接種を御検討ください。



高齢者を対象とした定期的インフルエンザ予防接種

- ◆対象者
川崎市内に住民登録のある方で、次の①又は②にあてはまる方
①接種日に65歳以上の方
②接種日に60歳～65歳未満の方
・心臓、腎臓、呼吸器の機能障害（障害1級程度）のある方
・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害（障害1級程度）のある方
- ◆実施期間と回数
令和5年10月1日～令和6年1月31日の間に1回
- ◆接種を受けられる場所
川崎市予防接種個別協力医療機関（市が指定した市内約700か所の医療機関）
- ◆自己負担金
2,300円（税込）

*詳細は川崎市ホームページをご覧ください。

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年10月3日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年10月2日（月）～令和5年10月8日（日）〔令和5年第40週〕の感染症発生状況

第40週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）新型コロナウイルス感染症 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は21.85人と前週（22.85人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は4.20人と前週（9.72人）から減少しました。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.97人と前週（3.27人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増えています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、例年冬季及び春から初夏にかけて報告数が増加する感染症です。川崎市では、新型コロナウイルス感染症の流行開始以降、報告数が大幅に減少していましたが、今年は4月頃から増加傾向にあり、令和5年第40週（10月2日～8日）の定点当たり報告数は3.97人となりました。なお、宮前区では警報基準値（定点当たり8.00人）を超えています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、通常予後は良好ですが、急性糸球体腎炎等の合併症を引き起こすこともあります。抗菌薬による治療が有効ですので、急な高熱とともに苺舌*や発しんなどがみられる場合は、早めに医療機関を受診し、処方された抗菌薬は最後まで飲み切りましょう。

*イチゴのように赤くボツボツした状態

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは？

病原体：A群溶血性レンサ球菌

感染経路：接触感染、飛沫感染

潜伏期間：2～5日間

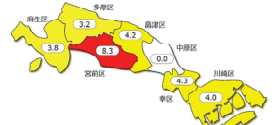
主な症状：突然の発熱、全身倦怠感、咽頭痛、苺舌（イチゴのように赤くボツボツした状態）、体や手足に小さく紅い点状発疹

合併症：急性糸球体腎炎、リウマチ熱等

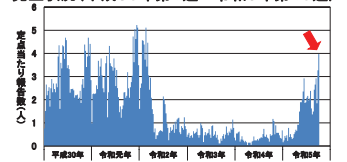
予防対策：患者との濃厚接触を避ける、手洗い等



川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎分布マップ（令和5年第40週）



川崎市感染症情報システム（KIDSS）
川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況（平成30年第1週～令和5年第40週）



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年10月11日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年10月9日（月）～令和5年10月15日（日）〔令和5年第41週〕の感染症発生状況

第41週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3）流行性角結膜炎でした。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は19.92人と前週（21.85人）から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.59人と前週（3.97人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は3.00人と前週（2.22人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

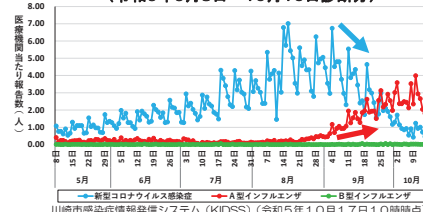


インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の現状

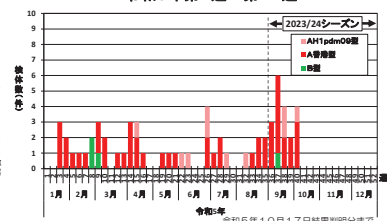
川崎市における新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は9月上旬から減少していますが、インフルエンザの報告数は同時期から増加しています。本市のリアルタイムサーベイランスにおいても同様の傾向がみられ、9月中旬以降は、インフルエンザの報告数が新型コロナウイルス感染症の報告数を上回っています。

インフルエンザのリアルタイムサーベイランスでは、今シーズンは報告のほとんどがA型です。また、健康安全研究所に搬入された検体からも、A型インフルエンザウイルスが多く検出されており、A香港型に加えて、AH1pdm09型も検出されています。感染拡大防止のため、基本的な予防対策に加え、ワクチン接種も是非御検討ください。

川崎市における新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザのリアルタイムサーベイランス医療機関当たり報告数推移（令和5年5月8日～10月16日診断分）



川崎市におけるインフルエンザウイルス検出状況
—令和5年第1週～第41週—



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年10月17日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年10月16日（月）～令和5年10月22日（日）〔令和5年第42週〕の感染症発生状況

第42週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3）咽頭結膜熱でした。
インフルエンザの定点当たり患者報告数は24.34人と前週（19.92人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.27人と前週（3.59人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
咽頭結膜熱の定点当たり患者報告数は2.92人と前週（2.05人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

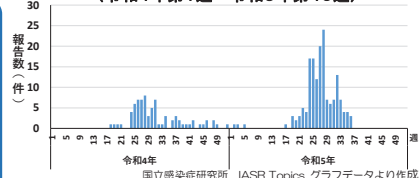


知っていますか？～ヒトパレコウイルスA3型による感染症～

ヒトパレコウイルスは軽症の胃腸炎や風邪等の原因となるウイルスで、夏から秋にかけて多く検出されます。ヒトに感染するといわれているA1型からA3型のうち、A3型は生後3か月未満の乳児における敗血症や脳炎の原因となることが知られています。乳児の重症例にみられる特徴的な症状として、哺乳不良、頻脈、網状チアノーゼ（皮膚の色が網目状に悪くなる）や腹部膨満等があります。また、成人においては、同じ型で感冒様症状とともに全身の筋肉痛を呈する流行性筋痛症がみられることもあります。

ヒトパレコウイルスは、家庭内で飛沫や接触により感染することが多いとされていますので、家族に感冒様症状がある場合は、小さいお子さんの体調にも十分注意するようにしましょう。

全国のヒトパレコウイルスA3型週別検出報告数
（令和4年第1週～令和5年第40週）



ヒトパレコウイルスA3型感染症とは？

【感染経路】
飛沫感染、接触感染

【症状】
高熱、哺乳不良、頻脈、咳、網状チアノーゼ（皮膚の色が網目状に悪くなる）、腹部膨満等
※生後3か月未満の乳児において、敗血症や脳炎の原因となることがある。
※成人は感冒症状に加え、全身の筋肉痛（流行性筋痛症）を呈することがある。

【予防対策】
手洗い、手指消毒、マスク着用など



ヒトパレコウイルスA3型による流行性筋痛症は、筋肉の痛みが上腕や大腿に出現することが多いのが特徴で、30歳代を中心とした若い男性に多くみられます。

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年10月24日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年10月23日（月）～令和5年10月29日（日）〔令和5年第43週〕の感染症発生状況

第43週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3）感染性胃腸炎でした。
インフルエンザの定点当たり患者報告数は25.28人と前週（24.34人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は5.11人と前週（4.27人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.49人と前週（2.76人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



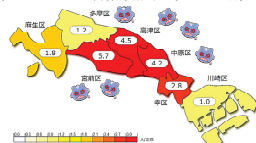
咽頭結膜熱の流行発生警報が発令されました！

川崎市における令和5年第43週（10月23日～29日）の咽頭結膜熱の定点当たり患者報告数は3.16人となり、平成18年以来17年ぶりに流行発生警報基準値（定点当たり3.00人）を超えました。7区のうち、中原区、高津区及び宮前区で基準値を超えており、宮前区が最多となっています。

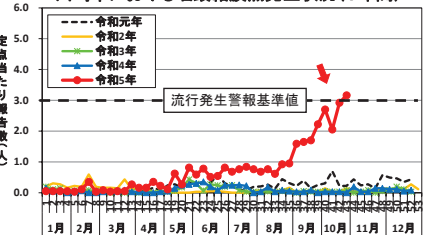
咽頭結膜熱の主な症状は、39℃前後の高熱や結膜充血、咽頭痛等で、特に熱は5日前後続く場合がありますが、比較的予後は良好です。しかし、肺炎等を合併することもあるため、特に基礎疾患のあるお子さんは注意が必要です。

小児が集団で過ごす保育園等では、タオルやおもちゃの共用を避け、手洗い等を徹底して感染の拡大を防ぎましょう。

川崎市における咽頭結膜熱分布マップ(第43週)



川崎市における咽頭結膜熱発生状況(5年間)



咽頭結膜熱の予防対策

流水と石けんで十分に手を洗う。

プールや温泉施設等の利用前後はシャワーを浴びる。

タオルやおもちゃの共用は避ける。

川崎市
KAWASAKI CITY

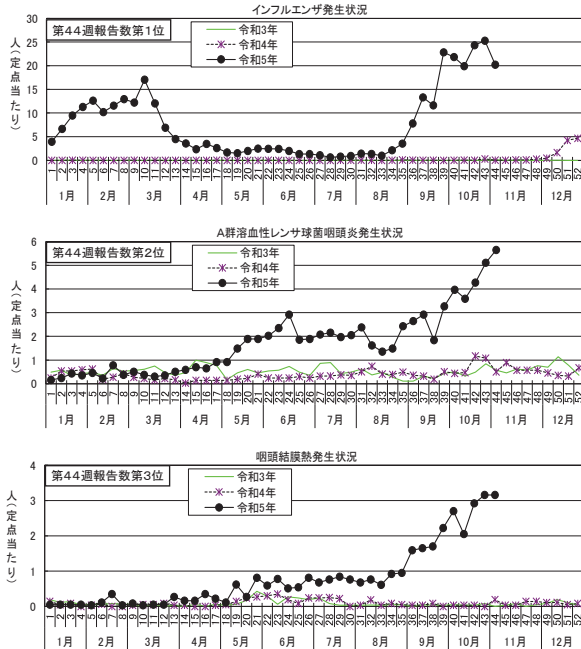
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年10月31日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年10月30日（月）～令和5年11月5日（日）〔令和5年第44週〕の感染症発生状況

第44週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3）咽頭結膜熱・感染性胃腸炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は20.21人と前週（25.28人）から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は5.65人と前週（5.11人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。咽頭結膜熱の定点当たり患者報告数は3.16人と前週（3.16人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.16人と前週（3.49人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



ノロウイルス食中毒警戒情報が発令されました！

令和5年11月6日に、神奈川県からノロウイルス食中毒警戒情報が発令されました。川崎市においては、令和5年第44週（10月30日～11月5日）の感染性胃腸炎の定点当たり報告数は3.16人と例年並みですが、通常は11月から増加し、12月から1月にかけてピークを迎えます。

感染性胃腸炎の予防のためには、排便後や調理前、食事前等は、流水と石けんで手を洗うことが大切です。また、冬季の感染性胃腸炎の主な原因となるノロウイルスは、アルコール消毒が有効でないため、患者のおう吐物や便等を処理する際は、必要な濃度の塩素系消毒液を用いて消毒を行いましょう。



塩素消毒液（次亜塩素酸ナトリウム希釈液）の作り方

食器、カーテン等の消毒や拭き取り （0.02%（200ppm）の塩素消毒液）		
製品濃度	次亜塩素酸ナトリウムの量	水の量
12%	5ml	3L
6%	10ml	3L
1%	60ml	3L

おう吐物等の廃棄（袋の中で廃棄物を浸す） （0.1%（1000ppm）の塩素消毒液）		
製品濃度	次亜塩素酸ナトリウムの量	水の量
12%	25ml	3L
6%	50ml	3L
1%	300ml	3L

※おう吐物等の酸性のものに直接原液をかけると、有毒ガスが発生することがありますので、必ず「使用上の注意」をよく確認してから使用してください。
※次亜塩素酸ナトリウムは使用期限内のものを使用してください。

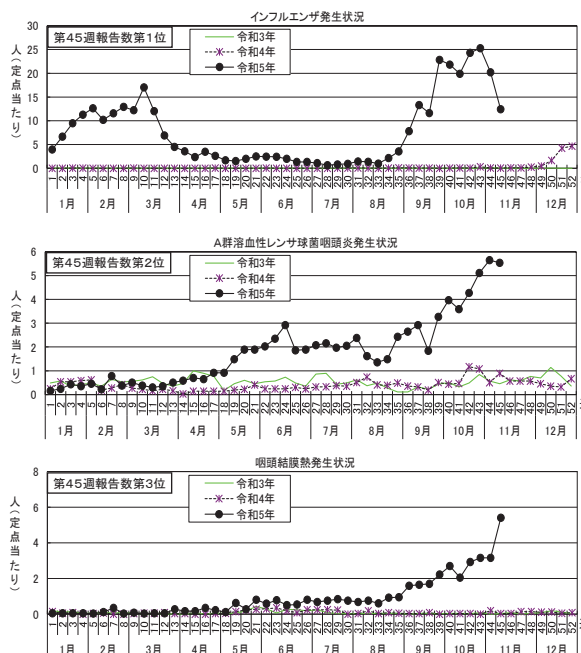
川崎市
KAWASAKI CITY
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年11月7日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年11月6日（月）～令和5年11月12日（日）〔令和5年第45週〕の感染症発生状況

第45週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3）咽頭結膜熱でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は12.43人と前週（20.21人）から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は5.54人と前週（5.65人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。咽頭結膜熱の定点当たり患者報告数は4.11人と前週（3.16人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

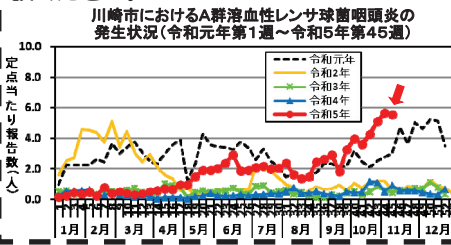
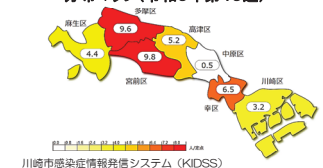


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎～突然の発熱に御注意を～

川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は、令和5年第45週（11月6日～12日）に5.54人となりました。新型コロナウイルス感染症の流行開始以降、大幅に報告数が減少していましたが、今年は流行前に戻りつつあり、現在、宮前区では9.83人、多摩区では9.60人と流行発生警報基準値（定点当たり報告数8.00人）を超えています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、突然の発熱や全身倦怠感、咽頭痛等で発症します。通常予後は良好ですが、急性糸球体腎炎等の合併症を引き起こすこともあります。初期症状ではインフルエンザや咽頭結膜熱等と区別が難しいため、突然の発熱等の症状が現れた場合は、医療機関に御相談ください。

川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況（令和5年第45週）



合併症に御注意ください！

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、リウマチ熱、急性糸球体腎炎等の合併症を引き起こすことがあります。合併症の予防のため、発症初期から適切に抗菌薬を使用し、症状改善後も、医師の指示に従って服用することが大切です。

川崎市
KAWASAKI CITY
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年11月14日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年11月13日（月）～令和5年11月19日（日）〔令和5年第46週〕の感染症発生状況

第46週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3）咽頭結膜熱でした。
インフルエンザの定点当たり患者報告数は15.16人と前週（12.43人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は7.03人と前週（5.54人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
咽頭結膜熱の定点当たり患者報告数は5.81人と前週（5.41人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



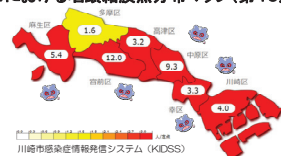
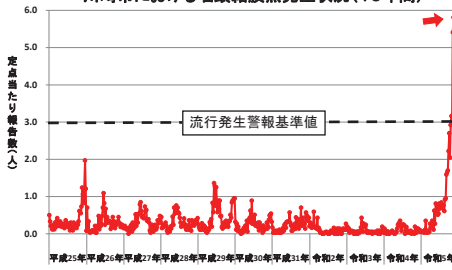
咽頭結膜熱～過去10年間で最多の報告数！～

川崎市における令和5年第46週（11月13日～19日）の咽頭結膜熱の定点当たり患者報告数は5.81人となり、過去10年間で最多の報告数となりました。今年は流行発生警報基準値（定点当たり3.00人）を超えた第43週以降も報告が続き、第45週には大きな増加もみられました。

咽頭結膜熱の原因であるアデノウイルスには様々な血清型が存在し、型によって呼吸器症状や眼症状、消化器症状等多様な症状が現れます。多くの場合は自然に治りますが、重症肺炎を起こしやすい型もあり、全身性の感染症に進展する場合があります。咳が激しい場合や、吐き気や頭痛が強い場合等は、早めに医療機関への受診を御検討ください。

川崎市における咽頭結膜熱発生マップ（第46週）

川崎市における咽頭結膜熱発生状況（10年間）



✓咽頭結膜熱の流行を起こす型は、多くは3型ですが、2型、4型、7型、11型等による流行もみられます。
✓特に7型は、重症の肺炎を引き起こし、乳幼児は髄膜炎や脳炎等を併発することもあります。

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年11月21日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年11月20日（月）～令和5年11月26日（日）〔令和5年第47週〕の感染症発生状況

第47週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3）咽頭結膜熱でした。
インフルエンザの定点当たり患者報告数は21.98人と前週（15.16人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は6.76人と前週（7.03人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
咽頭結膜熱の定点当たり患者報告数は5.24人と前週（5.81人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



梅毒の報告数が過去最多に！～先天梅毒にも御注意を～

川崎市における梅毒の報告数は、今年は第47週（11月20日～26日）までにすでに計116件となり、現在の調査方法となった平成11年第14週（4月5日～11日）以降、過去最多となりました。

梅毒は主に性的接触により感染し、初期は潰瘍や皮しん等の皮膚症状が出現しますが、治療せずに放置すると、神経症状等を呈し死に至る場合もあります。

また、妊婦が感染すると、流産、死産となる場合や、胎児が梅毒に感染した状態で生まれる（先天梅毒）可能性があります。いずれも妊婦に対する適切な抗菌薬治療で防ぐことができますので、感染が疑われる場合はすぐに医療機関を受診しましょう。

先天梅毒とは？

【症状】

出生時は無症状のことが多い。

- ・早期先天梅毒（生後数か月以内に発症）
皮膚症状、肝脾腫、骨軟骨炎等
- ・晚期先天梅毒（生後約2年以降に発症）
実質性角膜炎、感音性難聴、歯牙変形等

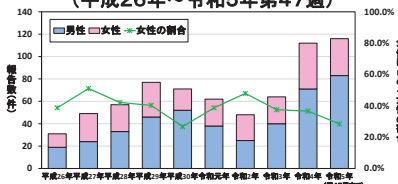
【予防】

定期的な妊婦検診、疑わしい症状がある場合の検査、早期治療、妊娠中の安全性性交渉

【治療】

抗菌薬治療

川崎市における梅毒報告数
（平成26年～令和5年第47週）



川崎市においては、令和5年に先天梅毒の報告はありませんが、全国では報告が相次いでおり、現時点での報告数は平成11年以降最多となっています。

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年11月28日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年11月27日（月）～令和5年12月3日（日）〔令和5年第48週〕の感染症発生状況

第48週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3）咽頭結膜熱でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は17.34人と前週（21.98人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.89人と前週（6.76人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。咽頭結膜熱の定点当たり患者報告数は4.73人と前週（5.24人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

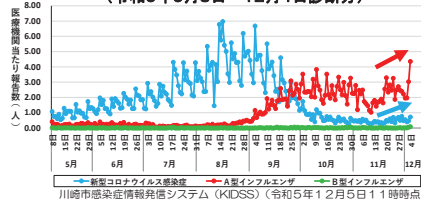


小児の呼吸器感染症の流行状況に御注意ください！

今年は、川崎市における様々な小児の呼吸器感染症の報告数が増加しています。インフルエンザやA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱は9月中旬から急激に報告数が増えており、インフルエンザの令和5年第48週（11月27日～12月3日）の定点当たり報告数は17.34人と、先週からやや減少したものの報告数の多い状況が続いています。また、現在は、新型コロナウイルス感染症も定点当たり2.10人と3週連続で増加しており、リアルタイムサーベイランスにおいても、11月下旬以降報告数の増加が続いています。

小児の呼吸器感染症は、市内だけでなく、国内及び海外においても報告数の増加がみられています。比較的身近な感染症であっても、免疫が不十分な乳児や基礎疾患を有する小児等では重症化することもありますので、周囲の流行状況には十分に御注意ください。

川崎市における新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザのリアルタイムサーベイランス医療機関当たり報告数推移（令和5年5月8日～12月4日診断分）



中国北部における小児の呼吸器感染症の増加について

現在、小児の呼吸器感染症は、世界各地において報告数が増加しているといわれています。特に中国北部において、小児の呼吸器疾患の急増が問題となっていますが、現時点では未知の病原体によるものではなく、インフルエンザやマイコプラズマ、RSウイルス、新型コロナウイルス等既知の病原体の流行によるものと報告されています。

（厚生労働省検疫所（FORTH）ホームページより）

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）（問合せ先）044-276-8250 令和5年12月5日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年12月4日（月）～令和5年12月10日（日）〔令和5年第49週〕の感染症発生状況

第49週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3）感染性胃腸炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は23.82人と前週（17.34人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は6.76人と前週（4.89人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.38人と前週（4.46人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

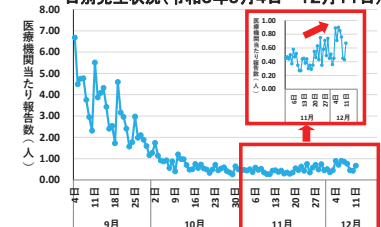


新型コロナウイルス感染症～20～50歳代もワクチン接種を！～

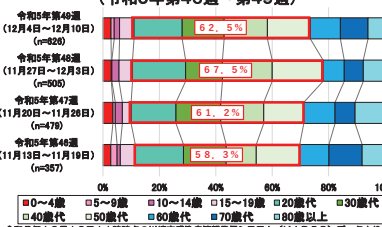
本市のリアルタイムサーベイランスにおける新型コロナウイルス感染症の医療機関当たり報告数は、令和5年11月下旬以降徐々に増加しています。年齢階級別では、過去4週間において20～50歳代の報告割合が58.3%～67.5%と半数以上を占めています。

また、川崎市における新型コロナワクチン2回接種完了者のうち、オミクロン株XBB.1.5対応ワクチンの年齢階級別接種率は、65歳以上は49.9%であるのに対し、20～50歳代では3.3%～12.7%となっています（令和5年12月11日時点）。現在本市が実施している新型コロナウイルスワクチン接種事業は令和6年3月31日をもって終了となり、来年度以降は接種対象者が限定される予定ですので、希望される方は早めに接種を御検討ください。

リアルタイムサーベイランスにおける新型コロナウイルス感染症の
日別発生状況（令和5年9月4日～12月11日）



リアルタイムサーベイランスにおける
新型コロナウイルス感染症の年齢階級別報告割合
（令和5年第46週～第49週）



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）（問合せ先）044-276-8250 令和5年12月12日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年12月11日（月）～令和5年12月17日（日）〔令和5年第50週〕の感染症発生状況

第50週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は25.79人と前週（23.82人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.00人と前週（6.38人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は6.57人と前週（6.76人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



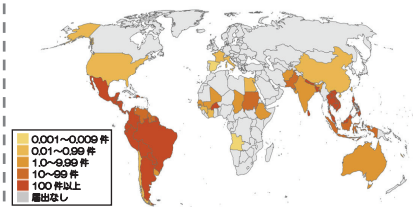
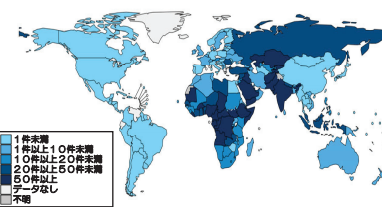
年末年始に海外旅行をされる予定の方々へ

今年の年末年始は、海外旅行をされる方が大幅に増えることが予想されます。現在は国外においても、インフルエンザ等の様々な感染症の報告数が増加しています。また、海外では、国内で通常みられない感染症や報告数の少ない感染症が発生していることもあり、渡航先によっては注意が必要です。中でも、麻しんは中東、アフリカ及び東南アジアで、デング熱は中南米及び東南アジアの一部の国々で大きな流行がみられています。

麻しんやデング熱は、発熱や発しん等の症状を呈する急性感染症です。海外から帰国後2週間程度の間に疑わしい症状がみられた場合は、早めに医療機関に相談しましょう。また、医療機関を受診する際には事前に連絡の上、渡航先や渡航期間、現地での行動歴等も必ず伝えるようにしましょう。

世界における麻しんの国別罹患数（人口100万人対）
～2022年11月～2023年10月～

世界におけるデング熱の国別罹患数（人口10万人対）
～2022年11月～2023年10月～



令和5年12月時点の世界保健機関（WHO）ホームページデータから作成

令和5年12月時点の欧州疾病対策予防センター（ECDC）ホームページデータから作成

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年12月19日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年12月18日（月）～令和5年12月24日（日）〔令和5年第51週〕の感染症発生状況

第51週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は24.95人と前週（25.79人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.28人と前週（7.00人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は5.58人と前週（6.57人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。



水痘（水ぼうそう）の地域的な流行がみられています！

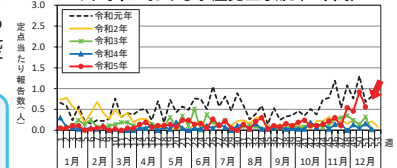
水痘は、水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）の初感染によって引き起こされる感染症です。平成26年10月に、小児の水痘ワクチンが定期接種化されたことで、全国的に水痘の患者報告数は減少しました。しかし、川崎市においては、令和5年11月下旬から水痘の報告数がやや増加し、第51週（12月18日～24日）の定点当たり報告数は0.56人となりました。特に宮前区では2.67人と、警報基準値（定点当たり2.00人）を超えています。

VZVは水痘だけでなく、帯状疱疹の原因ともなり、帯状疱疹の患者から感染することもありますので、特に免疫のない方等は注意が必要です。

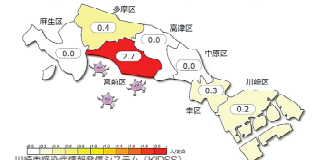
水痘とは？

- 【病原体】水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）
- 【感染経路】空気感染、飛沫感染、接触感染
- 【潜伏期間】2週間程度（10～21日）
- 【症状】発しん、38度前後の発熱、かゆみ等
※VZVは、感染後、生涯にわたって神経に潜伏し、加齢や疲労等による免疫力の低下により再び活性化して、帯状疱疹を発症します。

川崎市における水痘発生状況（5年間）



川崎市における水痘分布マップ（第51週）



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年12月26日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

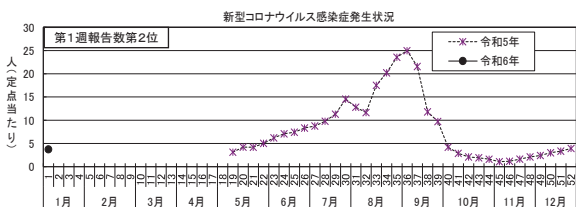
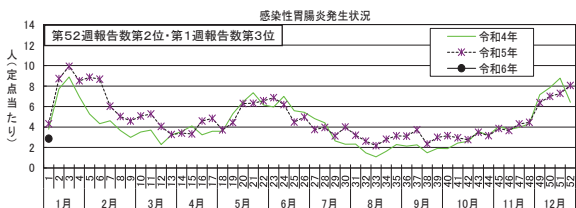
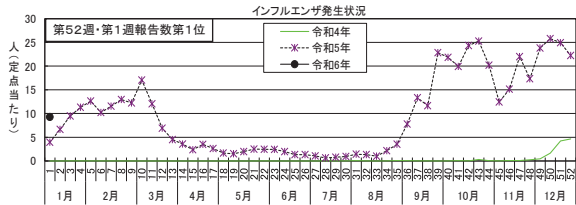
令和5年12月25日（月）～12月31日（日）〔令和5年第52週〕及び令和6年1月1日（月）～1月7日（日）〔令和6年第1週〕の感染症発生状況

令和5年第52週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

令和6年第1週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）新型コロナウイルス感染症 3）感染性胃腸炎でした。

令和5年第52週のインフルエンザの定点当たり患者報告数は22.23人と前週（24.95人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。

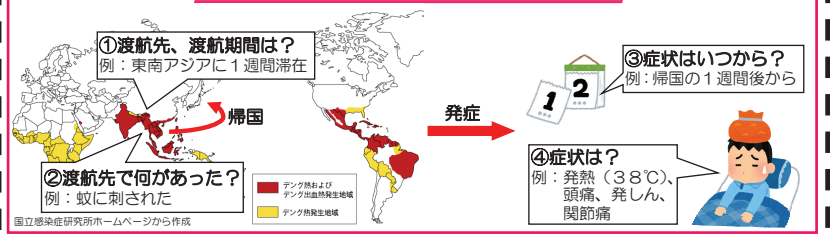
令和6年第1週は、年始で多くの医療機関が休診であったため、ほとんどの疾患で報告数が減少しています。



帰国後の体調変化に注意しましょう！

年末年始を海外で過ごされた方も多いかと思います。帰国後に消化器症状や発熱、発しん等の体調不良を訴える方は比較的多く、自然に回復する場合もありますが、中には思わぬ感染症が潜んでいる可能性もあります。体調がすぐれない場合は早めに医療機関を受診しましょう。また、早期に診断を確定し適切な治療を開始するために、受診の際には症状だけでなく渡航先や渡航期間、渡航中の行動等を医療機関にお伝えください。

帰国後の健康チェックのポイント 例：デング熱



- | | | | |
|---|--|---|---|
| <p>①渡航先、渡航期間等</p> <p>渡航先の流行状況や、渡航期間と潜伏期間から、特定の感染症を疑うことができるため、重要な情報となります。</p> | <p>②渡航中の行動</p> <p>生の水や加熱していない食物の飲食、虫さされ、動物との接触、性行為等は、診断の際に有用な情報となります。</p> | <p>③発症日</p> <p>発症日と潜伏期間を併せて考えることで、渡航先での感染であるかを、明確にすることができます。</p> | <p>④症状</p> <p>発熱や下痢の他、発しんや黄疸（白目が黄色くなる）、意識障害等の症状が現れる感染症もあります。</p> |
|---|--|---|---|

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和6年1月10日作成